

高等学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

教育経営

東京都教育委員会

平成 8 年 度

教育研究員名簿（教育経営）

No.	学 区	学 校 名	氏 名
1	1	都立九段高等学校	宮 田 茂
2	1	都立八潮高等学校	佐 藤 芳 教
3	4	都立小石川高等学校	佐 藤 光 一
4	4	都立城北高等学校	細 川 滋
5	4	都立飛鳥高等学校	上 田 健 一
6	6	都立本所工業高等学校	郡 司 正 典
7	7	都立富士森高等学校	町 田 和 郎
8	7	都立南平高等学校	針 馬 利 行
9	8	都立拝島高等学校	山 下 肇
10	8	都立東大和南高等学校	手 打 和 明
11	8	都立農林高等学校	相 良 健 二 郎
12	10	都立調布南高等学校	橋 田 嘉 臣

担当 指 導 部	主任指導主事	遠 藤 隆 二
指導部高等学校教育指導課	指 導 主 事	菅 沢 茂
指導部高等学校教育指導課	指 導 主 事	巽 公 一

研究主題 「生きる力」をはぐくむ高等学校教育の推進

目 次

I	主題設定の理由	2
II	「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成	
1	基本的な考え方	3
2	「生きる力」をはぐくむ中心科目「産業社会と人間」	4
	(1) 「産業社会と人間」の設置の意義	
	(2) 指導内容・方法	
3	「生きる力」をはぐくむ授業展開 — 指導内容・方法の工夫	5
	(1) 基本的な考え方 — 角度を変えた授業の展開	
	(2) 1 単位分の授業の指導事例	
	(3) 学習の効果	
	(4) 評価・評定	
4	多様な学習希望に応える選択科目	9
5	「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成例	10
III	豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	
1	基本的な考え方	12
2	学校における教育活動の改善充実	14
	(1) 「生きる力」をはぐくむ中心科目「産業社会と人間」の充実	
	(2) 豊かな人間性をはぐくむ教科指導の充実	
	(3) 特別活動等の充実	
3	学校外活動の積極的推進	15
	(1) 異文化体験学習（留学）	
	(2) 地域活動・ボランティア活動	
	(3) 企業実習・資格取得	
IV	条件整備	
1	人的条件について	20
2	施設・設備について	20
V	まとめと今後の課題	22
	〔参考資料〕「産業社会と人間」年間指導計画例	23

I 主題設定の理由

我が国の社会は、国際化、情報化、科学技術の発達、高齢化、少子化などが進み、大きく変化している。このような変化は今後ますます加速され、将来は先行き不透明な時代であることが予想される。また、このような変化は、国民全体に様々な影響を与え、多様な価値観や意識の変容を生み出している。一方、子どもたちの世界では、自然体験や社会体験の不足、人間関係の希薄化、主体性や耐性の欠如などの問題が指摘されている。そして学校教育においても、不登校、怠学などの学校不適応や中途退学の問題、いじめ、校内暴力、薬物乱用などの問題行動等にみられるように、多くの課題を抱えている。

第15期中央教育審議会の第一次答申（以下「15期中教審」という。）では、これからの社会において、子どもたちに必要となるのは、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」、つまり「生きる力」とであると述べられている。

そこで本年度の教育経営部会では、現在の都立高校の置かれている現状を踏まえ、生徒に「生きる力」を身に付けさせるための方策について研究することとし、本研究主題を設定した。

研究を進めるに当たり、次のような二つの柱を立てて検討した。

1 「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成

「生きる力」とは自己教育力、すなわち生涯学習の基盤となる思考力、判断力、表現力、創造力であり、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、課題を解決する能力である。これらの能力を身に付けさせるためには、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度が基本となる。そのためには、教育課程や教育内容・方法の見直しが必要であると考え、次の視点から、弾力的でゆとりある教育課程の編成について検討することにした。

- ① 生きる力をはぐくむ中心科目を設置し、生涯にわたり学ぶ意欲や態度の育成を図る。
- ② 授業展開の工夫により、自ら学び、主体的に判断し、課題を解決する能力を育成する。
- ③ 必修科目を最小限にして、生徒が自ら選択できる科目を拡大する。

2 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

豊かな人間性は、「生きる力」の一つの重要な要素である。そして豊かな人間性は、学校教育だけでなく、家庭や地域社会も含めて、様々な体験や人とのかかわり合いのもとに育成されなければならない。

学校教育においては、ホームルーム活動等の特別活動がその中心となるが、選択教科・科

目の拡大が図られてくると、ホームルーム単位での活動が減少するという問題も生じてくる。その場合、生徒同士が協同して何かに取り組み、喜びや苦しみを共有するような経験が少なくなり、他人の長所や短所を理解して人間関係を深めることが難しくなるため、生徒同士や生徒と教師との人間関係が希薄になることが危惧される。

これらの問題に対応していくためには、子どもたちの人間形成が、学校、家庭及び地域社会の全体を通じて行われるという教育の基本に立ち帰り、それぞれの役割と相互の連携の在り方を検討する必要がある。そこで、学校内外の生徒の諸活動を見直し、次の項目について検討することにした。

- ① 「生きる力」をはぐくむ中心科目を設置し、豊かな人間性の育成を図る。
- ② 豊かな人間性の育成に視点を置いた教科、特別活動の改善充実を図る。
- ③ 生活体験や自然体験を豊かにするための学校外活動を積極的に推進する。

Ⅱ 「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成

1 基本的な考え方

我が国の社会の様々な変化は、今後も急速に進むものと考えられる。とりわけ、国際化、情報化、高齢化などによる社会の変化は、一層進展するものと考えられる。生徒たちは、このような変化の激しい社会を、自己実現を図りながら、生きていかなければならない。また、変化する社会の状況に応じて、生涯にわたって学習を継続し、新たな課題を解決していかなければならない。このような社会を生き抜くために必要な力をどのようにして身に付けさせるかが、これからの教育の最大の課題である。

「生きる力」をはぐくむ教育は、知識や技能を一方的に教え込む教育から、ゆとりをもって、生徒自らが学び、自らが考える教育への転換を目指すものである。そして、豊かな人間性とたくましい身体をはぐくむ教育でもある。したがって、高等学校においては、知・徳・体のバランスのとれた教育を展開するとともに、家庭や地域社会との連携を強め、生徒自らが社会の変化を見据えて自らの進路を決定していくことのできる教育を推進していかなければならない。そのためには、いかに社会が変化しようとも時代を超えて変わらない価値のあるものをしっかりと身に付ける姿勢・態度と、時代の変化とともに変えていく必要のあるものに対しては柔軟に対応していく姿勢・態度とを、同時に培わなければならない。

このような教育を推進するためには、何よりも生徒の意欲的で主体的な学習態度を育成するとともに、生徒が自己の適性に応じて興味・関心のある教科・科目を自由に選択できるように教育課程を編成する必要がある。また、体験学習等によって豊かな人間性をはぐくむことも教育課程の編成上考慮する必要がある。そして、それらは人間としての在り方生き方に根ざした進路実現という視点で考えなくてはならない。

「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成に当たっては、以上のことを重視して、次の3点

を基調とした。

① 「生きる力」をはぐくむ中心科目の設置

生きる力をはぐくむ教育全体を総合する中心科目として、総合学科における原則履修科目である「産業社会と人間」を必修科目として各学年に設置することを検討した。

② 「生きる力」をはぐくむ授業展開

生徒一人一人の個性を生かした、生き生きとした授業を展開するためには、クラス一斉授業の他に、多展開授業またはチームティーチングによる課題研究型、演習型、体験学習型の授業が必要であると考え、これらの指導計画を検討した。

③ 多様な学習希望に応える選択科目

生徒が自らの在り方生き方に応じて選択できる教科・科目を拡大し、教育課程を弾力化する必要があると考え、必修科目は最小限にとどめ、生徒の多様な学習希望に応えるための様々な選択科目を設置することを検討した。

このような教育課程のもとに、生徒一人一人を多元的、多様な物差しで評価し、それぞれのよさや可能性を見出し、学ぶ意欲を高めることが、「生きる力」をはぐくむ教育であると考えた。

2 「生きる力」をはぐくむ中心科目「産業社会と人間」

(1) 「産業社会と人間」の設置の意義

今日、社会の様々な変化に伴い、産業構造・就業構造も大きく変化している。このような中で、将来の進路や自己の職業についての明確な見通しをもつことが難しくなっていることもあり、若者の職業選択は先送りされる傾向にある。高等学校入学時においても、自己の将来の進路についてしっかりとした自覚をもっている生徒は少ない。このような状況を考えると、高等学校における様々な学習を通して、人間としての在り方生き方を考え、自己の能力・適性を見出し、自己の生き方や進路を明確にさせることが、「生きる力」をはぐくむ教育を推進する上で極めて重要である。

体験的な学習活動を通してこれらの教育を充実させるためには、これまでの教科や特別活動の中だけでは不十分である。そこで、「生きる力」をはぐくむ中心科目として「産業社会と人間」を設置し、履修させることを提案する。

「産業社会と人間」の目標は、「高等学校教育の改革の推進に関する会議」の第四次報告（平成5年2月）に次のように示されている。

① 自己の生き方を探求させるという観点から、自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養う。

② 自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を

育成する。

- ③ 現実の産業社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成する。

現在、「産業社会と人間」は、総合学科の原則履修科目として位置付けられているが、「生きる力」をはぐくむという観点から、これからは普通科や専門学科にも設置することが必要と考える。

(2) 指導内容・方法

指導に当っては、自ら調べ、発表するという調査・発表・討論形式や、企業見学、学校見学などの体験学習、さらに講義、演習など様々な授業形態を取り入れる。その際に、社会人講師を積極的に活用し、またティームティーチングによる指導を実施する。

学習内容は、これまでに総合学科で行っている内容を参考にし、「進路と自己実現」、「産業社会について」、「選択教科の履修ガイダンス」を柱とする。さらに、豊かな人間性を育成する観点から、「豊かな心と望ましい人間関係」についての学習を加える。

このように自己の生き方を探求し、産業社会に対する認識を深め、自ら学び考える態度や豊かな人間性を養うためには、3年間継続して実施する必要がある。そこで、第1学年2単位、第2学年と第3学年各1単位の合計4単位を履修させることとする。指導内容は、学年の進行にしたがって、現実的かつ具体的なものとなるようにする。

「進路と自己実現」の学習では、生徒が自己の能力・適性などについて、体験を通して多面的に理解し、これに基づいて、自己をよりよく生かす進路を見い出す。また、希望の進路に向けてのキャリアプランを設計し、自己の生涯を展望する。

「産業社会について」の学習では、産業社会、職業生活、社会変化の状況などについて理解を深めるとともに、将来何らかの職業に就くという自覚を高め、自己をよりよく生かし、自己に適した職業を探索する。

「選択教科の履修ガイダンス」では、自らの進路に基づいて、多様な選択科目の中から自己を生かす科目を選び、生徒自らが主体的に時間割を作成する。

「豊かな心と望ましい人間関係」では、ボランティア活動、職場体験等の体験活動を通して、他人を思いやる心、人権を尊重する心、ボランティア精神などを、人とのかかわり合いの中から学ぶ。

以上の内容を学習することを通して、生涯にわたって学ぶ意欲を高め、自ら学び課題を解決する能力を育成し、豊かな人間性を培うことが期待できる。

なお、これらの指導内容については、ホームルーム活動、特に「個人生活及び社会生活の充実に関すること」や「将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること」との関連をもたせて指導する必要がある。

3 「生きる力」をはぐくむ授業展開 ― 指導内容・方法の工夫

学校における教育活動の基本は、教科指導である。学校を活性化し、生徒・保護者・都民の期待に応えることのできる学校づくりを目指すためには、授業の充実が強く求められる。

ここでは、生徒自身が主体的に取り組める授業展開について考えてみたい。この点については、様々な学校で種々の試みがなされているが、従来の一斉授業では限界があることが指摘されている。「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」をはぐくむためには、生徒一人一人の興味・関心、能力・適性などを生かす指導が必要である。そこで本研究では、一斉授業の効果的・能率的な指導法を生かしたうえで、授業の一部に多展開授業またはチームティーチングによる課題研究型、演習型、体験学習型の授業を取り入れることを検討した。

(1) 基本的な考え方 ― 角度を変えた授業の展開

4 単位の科目を 3 単位 + 1 単位に分割する。

3 単位：一斉授業。生徒の能力・適性、進路希望等に応じて教育内容を厳選し、基礎的・基本的事項の指導を充実する。

1 単位：多展開授業またはチームティーチングの授業形態を取り入れ、課題研究型、演習型、体験学習型の授業を行う。

(2) 1 単位分の授業の指導事例

ア. 課題研究型授業

国語 I（4 単位）第 1 学年で履修 1 クラス 2 分割授業

- ・各学期ごとに、テーマ別、題材別にクラスを 2 分割して指導する。
 - ・5 名程度のグループに分けて、課題研究を中心としたゼミ形式の授業を行う。
- 1 学期〔現代文分野〕 テーマ A「国際化社会について」 B「高齢化社会について」
- (1)取材：図書館を利用して必要な文献を探す。（図書館の利用法の指導）
 - (2)考察：資料を分析し、レポートを作成する。（レポートの書き方の指導）
 - (3)発表：各グループごとに考察の結果を発表する。（発表の仕方についての指導）
 - (4)討論：いくつかの問題点について意見を交わす。（討論の種類、方法等の指導）
 - (5)まとめ：自分の感じたこと、考えたことを文章にまとめる。（表現力の育成）
 - (6)評価：レポート・発表・討論を参考にして、まとめの文章で評価する。
- 2 学期〔現代文分野〕 テーマ A「短編小説を読む」 B「詩歌を味わう」
- 1 学期の指導に準ずる。
- 3 学期〔古典分野〕 テーマ「古典文法に慣れる」
- 題材 A『徒然草』 B『竹取物語』
- (1)準備：用言活用表・助動詞一覧表・助詞一覧表を作成する。
 - (2)品詞分解：教科書の本文を品詞分解する。（グループで協力して作業する）
 - (3)解釈・考察：自分たちで口語訳をして、助詞・助動詞の役割を考える。
 - (4)評価：まとめのレポートで評価する。

日本史 B (4 単位)	ティームティーチング
・ 5 名程度のグループに分けて、次のテーマに沿った課題研究を行う。 ・ 複数の教師により、横断的多角的な指導を行い、生徒の興味・関心を引き出すために、ティームティーチングを実施する。 ・ テーマ：「郷土の生活と当時の人々の生き方を学ぶ」 ・ 方 法：(1)明治期，大正期，昭和初期など時代の焦点をしぼる。 (2)図書館や郷土博物館などで，資料や文献を調査する。 (3)郷土史の専門家や年配者から聞き取り調査を行う。 ・ まとめ：(1)当時の生活用具や生活技術の実態 (2)職業生活の実態 (3)物価水準と生活 (4)その時代の人々の考え方と課題 などをまとめる。 1 学期：(1)研究する年代の決定 (2)調査方法の検討 (3)調査の開始 2 学期：(1)調査・研究の継続 (2)発表の準備 3 学期：(1)グループごとに発表 (2)質疑応答 (3)調査・研究のまとめ	

地学 I B (4 単位)	1 クラス 2 分割授業
課題研究型体験学習（グループ学習） テーマ別にクラスを 2 分割する。 テーマ「地球」(1)地域の河川や河岸段丘などで岩石を採取する。(2)その組織調査・色調調査を行う。(3)文献により，その地域の地質上の様子，歴史などを調べて，採取した岩石の形成過程を考察する。(4)グループごとに自分たちの研究をまとめ，発表する。 テーマ「気象」(1)各グループ内で協力して気象情報をもとに，天気図を継続的に描き続ける。(2)文献，気象衛星の写真などから，その時期の天気の特徴や大気の構造を調べ，自分たちの描いた天気図との関連を話し合う。(3)その結果をレポートにまとめ，発表する。	

イ. 演習型授業

数学 I (4 単位) 第 1 学年で履修	2 クラス 3 展開で習熟度別学習
・ 生徒の実態に合わせて 3 段階のコースを設定し，生徒に選択させる。 ・ 各コースでは，生徒の理解度に応じた問題演習を行う。 ・ パソコンを活用した C A I 授業を取り入れる。 ・ 実習演習：噴水をビデオに撮り，どのような 2 次関数になるか調べる。三角比を使って建物や木の高さを測る。さいころを使い，確率の実験をする。	

- ・問題から問題への発展：生徒が問題を作り、互いに解き合う。

ウ. 体験学習型授業

英語Ⅱ（４単位）第２学年で履修 ティームティーチング
・日本人教師と外国人英語等指導員（ALT）とのティームティーチングにより、５～６名からなるグループでの体験学習型の授業を行う。 ・１学期 テーマ「英語のCMづくり」 - グループごとにある商品を想定し、そのTVコマーシャルを制作する。 (1)企画：グループ内で話し合う。（教師の助言） (2)準備：英語の台本を作成する。（ALTの添削指導） - 大小道具を作成する。BGMなどを準備する。（他教科教員の援助） (3)練習：（教師とALTの指導） (4)録画：できた作品をビデオに録画する。 (5)発表・評価：グループごとに発表し、生徒同士で評価する。 ・２，３学期 テーマ「英語劇をつくり上演する」 １学期の指導に準ずる。

(3) 学習の効果

４単位の授業のうちの１単位分について、以上の事例のような指導内容・方法で実施した場合、次のような学習の効果が期待できる。

- ① 生徒が主体的に課題に取り組むことにより、その科目に対する興味・関心を引き起こすことができる。
- ② 一斉授業では気が付かなかった生徒の個性や能力を発見できる。
- ③ 教師の担当する生徒の数が少なくなるため、個に応じた指導が可能になる。
- ④ グループ学習を取り入れることにより、他の生徒と協力して問題解決を図る態度を身に付けさせることができる。
- ⑤ 教科の学習内容と自らの生活や生き方との接点を見い出すことができ、学習意欲を高めることができる。
- ⑥ より専門的な課題に取り組むことにより、生徒の将来の進路選択により刺激を与えることができる。
- ⑦ 自ら課題を発見し、自ら学ぶ力を培うことにより、生涯学習の基礎的な態度を身に付けさせることができる。

(4) 評価・評定

以上の授業展開で授業を行った場合の評価・評定については、次のことを基本とする。

- ① １単位分の授業については、それぞれの課題の成果（レポートや作品など）と課題に対する意欲・態度などを総合して評価する。

- ② 3単位分と1単位分のそれぞれの授業の評価を、3:1を基準として合算して評定を出す。

4 多様な学習希望に応える選択科目

「生きる力」をはぐくむためには、生徒の多様な学習希望に応えた選択科目を設置することが重要と考え検討した。これについては、学科や課程により内容が異なるため、ここでは、全日制課程の普通科について検討したことを述べる。

「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成に当たっては、必修科目の単位数を必要最小限にし、多様な選択科目を設置し、選択幅の拡大に努める必要がある。第1学年では、すべて必修科目あるいは必修選択科目を設置する。その際、理科と地理歴史の必修選択では、A、Bの両科目とも設置する。第2、3学年では、自らの興味・関心、進路等に基づいた主体的な選択を促し、意欲を高めるようにし、選択の幅を広げ、生徒の多様な学習希望に応えられるようにする。

また、各学年にわたって「産業社会と人間」を設け、「生きる力」と豊かな人間性をはぐくむ中心科目として位置付ける。この科目は、自主的な時間割づくりや、進路決定を援助する選択制を支えるガイダンス的科目としても重要な役割を果たす。

選択科目を設置するに当たっては、生徒が安易に科目を選択することがなく、系統的で広がりのある学習が可能となるように、科目選択の目安となる「系列」選択科目群を設ける。系列には、いくつかの柱が考えられるが、本研究では、国際化、高齢化、情報化等の社会の変化に対応した学習を重視し、これらの基礎・基本を培う観点から、「国際文化系列」、「芸術文化系列」、「福祉社会系列」、「情報社会系列」の4系列を選択の柱とした。

「国際文化系列」には、21世紀の国際社会に生きていくために必要とされるセンスや能力を養うために、「話す―聞く」を重視し、生きた英語を身に付けられるように「パブリック・スピーキング」、「ディベート」、「ディスカッション」等の科目を設置する。また、国際社会に生きる日本人として異質な文化や社会を理解できるようにするために、「異文化理解」、「国際関係」、「外国事情」等の科目も設ける。

「芸術文化系列」には、自己の感性を的確に表現し、相手に伝える基本的知識・技能を養うために「基礎造形」、「デザイン」、「絵画」等の美術分野の科目と、「劇表現」、「演劇論」等の演劇分野の科目を設ける。

「福祉社会系列」には、心豊かで他人の立場を理解し、社会に貢献できる基礎的な能力や態度を育成することを目指して、看護・福祉分野の「家庭看護・福祉」、「福祉実践」、「社会福祉」等の科目を設ける。

「情報社会系列」には、情報化社会に対応して、コンピュータの基礎的知識・技能や情報活用能力を身に付けられるように「情報数理」、「コンピュータ言語」等の科目を設ける。

以上の系列選択科目群の他に自由選択科目群を設置する。両科目群には、「その他の科目」や「その他特に必要な教科」も想定し、体験を重視した専門科目を中心に設置する。また、「地域研究」、「課題研究」等の横断的・総合的な科目も設ける。

その他に必修選択科目群も設置する。必修選択科目には、「国語Ⅱ」、「数学Ⅱ」、

「英語Ⅱ」等の教養を深化する科目を置く。したがって、自らの興味・関心、進路希望等に基づいて、必修選択科目群（選択Ⅹ）、系列選択科目群、自由選択科目群（選択Ⅺ）から組み合わせて科目選択ができるようにする。その際に、学年を越えて履修できる科目を設けて、異学年間の学習上の交流を図る。また、在籍校にない他校の講座選択が可能となるように、全定併修や学校間連携の実施も考える。

5 「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成例

本章では、「生きる力」をはぐくむ中心科目としての「産業社会と人間」の設置、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるための授業展開の工夫、多様な学習希望に応えるための選択科目の設置などについて検討してきた。これらの検討事項を踏まえて、全日制課程の普通科の場合について、以下のような教育課程表を試作した。

<教育課程>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1 学年	国 語 Ⅰ			数 学 Ⅰ			地* 理 歴 史			理* 科			体 育			保 健	芸* 術 Ⅰ		英 語 Ⅰ			家 庭 一 般		と 人 間 社 会		産 業 社 会		H R		必 ク ラ ブ		
2 学年	公* 民		体 育		保 健	芸* 術 Ⅱ		O C A		家 庭 一 般		産 社 人 間		選 択 Ⅹ										選 択 Ⅺ					H R		必 ク ラ ブ	
3 学年	公* 民		体 育		産 社 人 間		選 択 Ⅹ							選 択 Ⅺ															H R		必 ク ラ ブ	

地理歴史：世界史A、日本史A、地理Aから2科目、または世界史B、日本史B、地理Bから1科目選択

理 科：物理ⅠA、化学ⅠA、生物ⅠA、地学ⅠAから2科目、または物理ⅠB、化学ⅠB、生物ⅠB、地学ⅠBから1科目選択

公 民：現代社会、または倫理及び政治・経済のうちから選択

芸 術Ⅰ：音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰから1科目選択

芸 術Ⅱ：音楽Ⅱ、美術Ⅱ、工芸Ⅱ、書道Ⅱから1科目選択

<選択科目群>

必修選択科目群（選択Ⅹ）															系列選択科目群（選択Ⅺ）																		
国語Ⅱ④	国語表現②	現代文②	古典Ⅰ③	古典Ⅱ③	古典講読②	世界史A②	世界史B④	数学Ⅱ③	数学A②	数学B②	物理Ⅱ③	化学Ⅱ③	生物Ⅱ③	地学Ⅱ③	英語Ⅱ④	オーラルB②	オーラルC②	リーディング③	ライティング③	国際文化系列	◇国際関係②	◇外国事情②	◇時事英語②	◇LⅡ演習②	◇スプリング②	◇パブリック②	◇異文化理解②	◇ディベート②	◇シヨン②	◇中国語Ⅰ②	◇中国語Ⅱ②	◇仏語Ⅰ②	◇仏語Ⅱ②

系列選択科目群（選択Ⅴ）										自由選択科目群（選択Ⅴ）																																																																																																																																																															
芸術文化					福祉社会					情報社会					現代文②					現代語②					古典Ⅰ③					小説Ⅱ②					世界史A②					世界史B④					世界史演習②					日本史A②					日本史B④					日本史演習②					地理A②					地理B④					地理演習②					数学Ⅲ③					数学A②					数学B②					数学C②																																																																										
◇劇表現Ⅰ②					◇劇表現Ⅱ②					◇演劇論Ⅰ②					◇演劇論Ⅱ②					美術概論②					絵画④					デザイン④					◇基礎造形Ⅰ②					◇基礎造形Ⅱ②					◇社会福祉②					家庭看護福祉②					福祉実践②					保育②					◇情報数理Ⅰ②					◇情報数理Ⅱ②					◇情報数理Ⅲ③					◇コンピュータ言語②					物理ⅠA②					物理ⅠB④					化学ⅠA②					化学ⅠB④					生物ⅠA②					生物ⅠB④					地学ⅠA②					地学ⅠB④					スポーツⅠ②					スポーツⅡ②					音楽Ⅲ②					工芸Ⅲ②					書道Ⅲ②					食物②					被服②					◇地域研究②					◇課題研究②				

1) ○内の数字は単位数である。

1) ○内の数字は単位数である。

2) ◇印は「その他必要な科目」である。

<授業選択例>

ここでは、参考のために、系列科目を中心に選択した5つの選択例を示す。

- ①は、国際文化系列の科目を中心に選択し、大学等への進路を目指したものである。
- ②は、芸術文化系列の中で演劇系の科目を中心に選択し、幅広い進路を目指したものである。
- ③は、芸術文化系列の中で美術系の科目を中心に選択し、幅広い進路を目指したものである。
- ④は、福祉社会系列の科目を中心に選択し、社会福祉系の進路を目指したものである。
- ⑤は、情報社会系列の科目を中心に選択し、大学等への進路を目指したものである。

なお、以下の表には、第1学年での地理歴史及び理科の選択科目、第2、3学年での選択X及び選択Yの選択科目をのせた。

授業選択例①

1 学年	世界史B	生物IA	地学IA	2 学年	国語II	英語II	リーディング	OCB	国際関係	IL演習
3 学年	古典I	ライティング	現代文	世界演習	外国事情	異文化理解	時事英語	ディベート	課題研究	地理A

授業選択例②

1 学年	日本史B	物理IA	化学IA	2 学年	国語II	世界史A	OCB	古典I	古典講読	劇表現I	演劇論I
3 学年	英語II	現代語	国語表現	劇表現II	演劇論II	小論文	古典II				

授業選択例③

1 学年	世界史A	日本史A	生物IA	地学IA	2 学年	国語II	英語II	古典I	国語表現	美術概論	基礎造形I
3 学年	リーディング	ライティング	現代文	デザイン	基礎造形II	食物	スポーツ	課題研究			

授業選択例④

1 学年	世界史B	生物IA	化学IA	2 学年	国語II	英語II	リーディング	現代文	社会福祉	家庭看護福祉
3 学年	古典I	ライティング	現代文	世界演習	福祉実践	保育	音楽III	小論文	地域研究	日本史A

授業選択例⑤

1 学年	地理B	化学IB	2 学年	国語II	英語II	数学II	数学A	情報数理I	情報数理II
3 学年	化学II	リーディング	数学B	生物IB	数学III	数学C	世界史A	情報数理III	コンピュータ言語

Ⅲ 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

1 基本的な考え方

「生きる力」をはぐくむためには、豊かな人間性を育成することが大切である。これについて、15期中教審では、「豊かな人間性をはぐくむための教育は、道徳、特別活動だけでなく各教科などのあらゆる教育活動を通じて展開されるべきである・・・」と提言している。

豊かな人間性をはぐくむ教育については、従来から、教科や特別活動を通して、他人を思いやる心、人権を尊重する心、美しいものに感動する心、ボランティア精神などの育成が図られてきた。しかし、これらについて必ずしも計画的・組織的・系統的には行われていないのが現状である。そこで本研究では、15期中教審の「これからの学校教育の目指す方向」の提言に基づき、豊かな人間性を育成するための具体的な方策を検討した。

15期中教審では、生徒の学校外における体験的な活動や、自らの在り方生き方を考えて努力した結果をこれまで以上に積極的に評価していくことを提言している。そして、これまでにすでに制度化されている、他の高等学校や専修学校における学習成果の単位認定以外にも「ボランティア、企業実習、農業体験実習、各種資格取得、大学の単位取得、文化・スポーツ行事における成果、放送大学の放送授業等を利用した学習、各種学校・公開講座等における学習、テレビやインターネット、通信衛星などマルチメディアを利用した自己学習などについて、各高等学校の措置により、高等学校の単位として認定できる道をひらくことを積極的に検討していく必要がある。」としている。

各種の体験的活動を推進する観点から、これらの活動の単位認定が、今後、制度化の方向に進むことを想定し検討した。これらの措置は、学校生活に「ゆとり」を生み出すとともに、生徒に各種の学校外活動に取り組むきっかけを与えるものとする。

このような考えのもとに、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進として、特に以下の3点について検討した。

(1) 「生きる力」をはぐくむ中心科目「産業社会と人間」の充実

第Ⅱ章で、「生きる力」をはぐくむ中心科目として「産業社会と人間」を位置付けた。その中で、「豊かな心と望ましい人間関係」に関する学習内容を取り入れたが、職場体験、自然体験、ボランティア活動、異文化体験学習などの体験を通して、豊かな人間性をはぐくむ教育活動を充実させる。その実施に当たっては、次のことを基調とする。

- ① ボランティア活動、職場体験などの意義や理念を理解させる。
- ② ボランティア活動、企業実習、自然体験学習などの体験学習を、学校や地域社会の実態に応じて積極的に行う。
- ③ 地域社会の人材を適切に活用する。

これらの教育活動を通して、人間としての在り方生き方を考えさせるとともに、思いやり
の心、ボランティア精神、社会性などの豊かな人間性をはぐくむ。

(2) 豊かな人間性の育成に視点を置いた教科・特別活動の改善充実を図る。

- ① 教科指導においては、「産業社会と人間」の学習に啓発され、さらに深く学びたいという生徒のために、これに関連した選択科目を設置し、豊かな人間性をはぐくむ横断的・

総合的な学習を推進する。その際に、地域社会との連携を図る。

- ② 特別活動においては、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、クラブ活動の中で、職場体験、自然体験、ボランティア活動につながる活動を一層推進し、社会性や勤労観・職業観を育成していく。その際、「産業社会と人間」と関連付けて指導する。

(3) 学校外活動の積極的推進

学校週五日制の実施に伴い、学校外活動の果たす役割は一層重要になっている。その際、学校外活動が社会性などの豊かな人間性を育成する場となるように働きかけたい。本研究では、学校外活動の中でも特に、短期留学、地域活動、ボランティア活動、企業実習、資格取得等について、15期中教審で提言された単位認定の方向性を見据えながら、積極的に推進することを検討した。

ア. 異文化体験学習（留学）

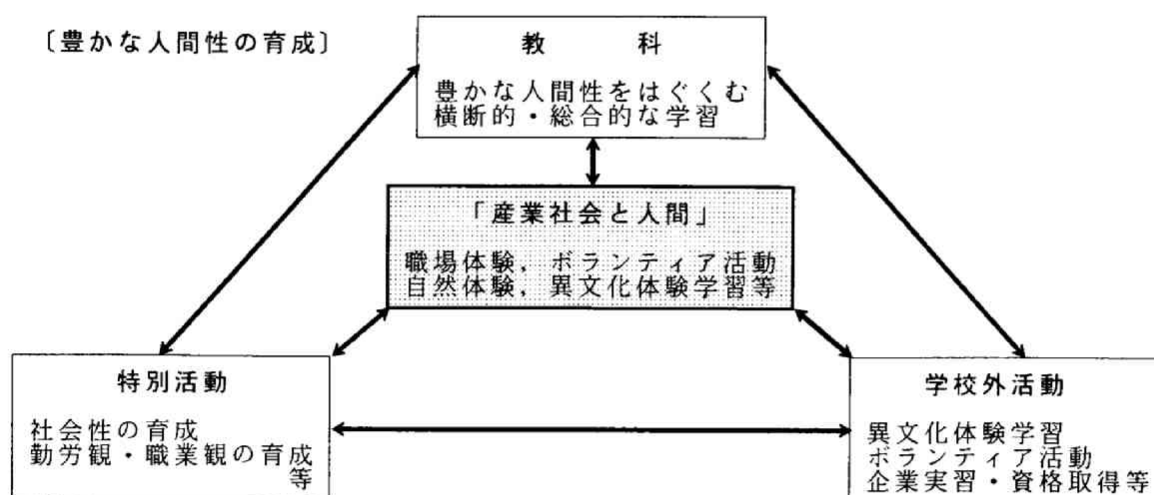
国際化が進む中で、異文化を体験し、異文化理解を深めていくことは豊かな人間性を培うことにつながる。そこで、東京都や全国の留学の現状を踏まえ、短期留学や外国への研修旅行などの異文化体験学習を積極的に評価することを検討した。

イ. 地域活動・ボランティア活動

地域活動やボランティア活動は、人を思いやる心や連帯感などを育てる。このような地域との交流は各高等学校の特色化の一環として実施されている。そこで、東京都教育委員会が推進している「都立高等学校 I・C（個性化・特色化）推進事業」のうち、地域活動やボランティア活動について調査し、それに基づいて地域との交流をより一層活性化させるための方策を検討した。

ウ. 企業実習・資格取得

企業等での職場体験は、異年齢の人々とのかかわりなどにより、社会性や望ましい職業観・勤労観などがはぐくまれることが期待できる。また、自らの生き方に基づいた資格取得に向けた学習は、生徒に自らの進路を実現するために努力する態度や、ものごとを成し遂げようとする強い意志を育てることにつながる。そこで、企業実習や資格取得に関して、専門学科はもとより普通科においても積極的に実施していくことを検討した。



2 学校における教育活動の改善充実

学校週5日制の実施により、学校での生活時間が減少する中で、「ゆとり」を確保し、豊かな人間性をはぐくむことは難しい課題である。そこで、これまでの学校内の様々な教育活動を見直し、体験学習などを有効に取り入れ充実させることが、生徒の活動意欲を高め、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進につながると考え、これについて検討した。

(1) 「生きる力」をはぐくむ中心科目「産業社会と人間」の充実

第Ⅱ章で、「生きる力」をはぐくむ中心科目として「産業社会と人間」を位置付けた。この科目の学習は、我が国の産業の発展と社会の変化についての認識を深めるとともに、自己を見つめ、自己の生き方を考える大切な機会となる。この科目の中で、他人を思いやる心、人権を尊重する心、美しいものに感動する心、ボランティア精神などを培う内容を取扱い、豊かな人間性をはぐくむ教育の中心科目とする。具体的には、ボランティア活動、異文化体験学習、職場体験学習、自然体験学習、地域活動などの体験を重視した学習を充実させる。

その際、各教科や特別活動との関連を図るとともに、これに関連する学校外活動を行うための動機付けとしていくことが大切である。

(2) 豊かな人間性をはぐくむための教科指導の充実

豊かな人間性の育成に当たっては、公民科を中心として、あらゆる教科で指導する必要がある。

「産業社会と人間」で学んだボランティア活動、異文化体験学習、職場体験学習、自然体験学習、地域活動などの体験学習に興味を示し、さらに深く学びたいという生徒のために、「社会福祉」、「国際関係」、「地域研究」等の選択科目を設置する。

その際、地域社会において幅広い分野の知識や技能をもつ社会人との交流を図り、講演・実演・講習、施設の見学や現場での実習、野外での観察・調査等を実施するなど、横断的・総合的な学習を行う。これにより、豊かな人間性、自らの生き方を主体的に考える態度、社会の変化に対応する能力等の育成が図られると考える。

これらの指導を充実するためには、地域社会や企業等の社会人との連携・協力体制をどのようにつくるかが課題である。

(3) 特別活動等の充実

特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力の育成を目指した教育活動である。これらの活動の中に職場体験、自然体験、ボランティア活動などの体験学習を積極的に取り入れ、これらを充実させることが、豊かな人間性をはぐくむことにつながる。

ア. ホームルーム活動

授業形態が多様になり、多展開の授業や習熟度別授業が多くなり、また選択制が拡大してくると、ホームルーム単位での活動時間が少なくなるため、ホームルーム活動は、これまで以上に貴重な時間となる。

このような中であって、ホームルーム活動の実施に当たっては、学級内の望ましい人間関係を培い、集団生活の充実と向上を目指すということに一層配慮し、その充実を図ることが

必要となる。また、クラス単位だけでホームルーム活動を考えるのではなく、選択科目の系列別に行うなど、多様な形態での集団活動を検討する必要がある。

また、「生きる力」をはぐくむ中心科目である「産業社会と人間」との関連を図り、その内容との重複を避け、ホームルーム活動の年間計画を再検討する必要がある。

イ. 生徒会活動

生徒会活動は、生徒の学校生活の充実・向上を図り、生徒の諸活動の連絡調整を行い、学校行事に協力する活動であり、すべての生徒が様々な形態で参加している。

この中で、各種委員会等で自治的活動を行うことは、自主的・実践的な態度や奉仕の精神等を育てるよい体験となる。このような自主的活動の中に、空き缶回収運動、老人ホームでの手伝い、交換留学生との交流などを積極的に取り入れ、生徒会活動をより一層活性化させ、充実させることが大切である。

これらの活動を組織的に行うためには、「福祉委員会」、「国際交流委員会」、「地域交流委員会」、「環境委員会」等の専門の委員会を新たに設置するなども検討したい。

ウ. クラブ・部活動

クラブ活動は、共通の興味・関心をもつ生徒で組織され、全生徒が文化的・体育的・生産的・奉仕的のいずれかの活動を行うものであり、自己の進歩向上に必要な知識、技能、知恵そして力を得る質の高い体験や思索の機会である。これらの活動を豊かな人間性をはぐくむよい機会ととらえ、積極的な参加を促し、より一層の充実を図りたい。

また、部活動は生徒の興味・関心に基づいて、特定の分野について、かなりの専門性を高めることができる。部活動については、現行では単位認定の対象にならないが、教科・科目の学習の一環として評価できるものもある。例えば、サッカー部の活動を「スポーツⅡ」、生物部の活動を「生物Ⅱ」の学習の一部を補完するものとして評価し、教科と部活動との連携を図ることにより、生徒の活動意欲が高まり、学習の効果も上がると考えられる。

エ. 学校行事

学校行事は、全校もしくは学年またはそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動である。これに積極的に参加する態度を育てることは、豊かな人間性をはぐくむことにつながる。

学校週5日制の実施に伴い、学校行事の精選が求められている。そこで、「産業社会と人間」との関連を踏まえ、これまでに学校行事で行っていた内容のうち、特に勤労生産・奉仕的行事や学芸的行事の一部を「産業社会と人間」で取扱うなどの検討が必要である。

3 学校外活動の積極的推進

豊かな人間性をはぐくむ教育を推進するためには、学校内活動とともに学校外活動が重要な役割をもつ。特に、社会との接点の中で、自ら考え主体的に行動できるように学校外活動を積極的に推進したい。本研究では、学校外での活動を推進する意味から、単位認定の方向性も視野に入れて検討した。

(1) 異文化体験学習（留学）

国際化が進む社会において、高校生が海外へ渡航する機会は確実に増加しており、その形

態も多様化している。留学や外国への研修旅行などの海外での学習を体験することは、異文化理解を深めるとともに、国際的視野を広げることにつながり、その意義は大きい。また、異なる文化の中で国際交流を深めることは、「自国の文化」と「他国の文化」との違いを経験し、自己の生き方を考える絶好の機会になる。その上、人間関係を見つめ直すことにもつながり、豊かな人間性をはぐくむ教育としての価値が高いと考える。

平成6年度における高校生の3か月以上の留学は、文部省の調査によると、全国で3,998人である。また、留学をして平成6年度中に帰国した生徒は、全国で3,368人おり、これらの生徒の身分の取扱いは、留学2,107人、休学1,147人、退学114人である。さらに、留学、休学者の留学終了後の取り扱いについては、留学時の学年に復帰している者が1,583人（48.6%）、進級、卒業した者が1,671人（51.4%）となっている。

なお、平成7年度における都立高校生の留学等の状況は次の表のとおりである。

取扱い区分	合計 人数	男女別人数		外国における学習機関		在籍校（日本）における学年				外国での学習期間			
		男子	女子	高校	その他	1年	2年	3年	4年	3～6月	7～12月	13月以上	不明
留学	146	39	107	146	0	27	81	38	0	2	120	24	0
休学	24	10	14	19	5	10	10	4	0	1	19	3	1
計	170	49	121	165	5	37	91	42	0	3	139	27	1

（東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 調査）

長期留学（1年以上2年未満）については、平成元年の学校教育法施行規則の一部改正により、30単位を上限として単位の修得が認められるようになり、その後はこの制度を生かして進級、卒業ができた者は多い。

しかし一方、短期留学（3か月以上1年未満）及び外国への研修旅行（語学等の研修や国際交流のために外国の高等学校や語学研修所等において学習し、または交流事業に参加することを目的とする3か月未満の旅行をいう。）については、現行の制度では、単位の認定が認められていない。なお、外国への研修旅行に参加した延べ人数は、全国で32,465人と年々増える傾向にある。（平成6年度文部省調べ）

短期留学や外国への研修旅行についても、単位認定を行うことができれば、生徒の活動意欲を高めることが期待できる。さらに、スポーツ交流や洋上セミナーなどへの参加についても同様に考えることができれば、異文化学習を高く評価することになり、積極的な参加につながるものと考えられる。今後、短期留学や外国への研修旅行等の単位認定が制度化された場合の単位の認定方法を、下記のとおり検討してみた。

＜単位認定の方法＞

- ・事前指導 — 計画書及び参加希望理由書を提出させ、事前学習を実施する。
- ・事後指導 — 報告書を提出させ、「留学生プログラム」に対する評価を行う。

- ・認定科目 — 英語，世界史，地理等の増加単位として認めることや，「異文化理解」等の「その他の科目」を設けて認定することが考えられる。
- ・運営組織 — 単位の認定に際しては，各学校において専門の組織で検討し，その具体的な基準を定めて審議する。

さらに，外国人留学生を受入れることも，異文化理解を深めることにつながる。日常生活の中で直接外国人と接し，互いに心を通じ合うことは，異文化理解を深めるだけでなく，豊かな人間性を育成することにもつながる。したがって，留学生の受入れについても積極的に推進する必要がある。

(2) 地域活動・ボランティア活動

地域活動やボランティア活動などの地域との交流は，他人を思いやる心や連帯感を培うなど，豊かな人間性をはぐくむ教育として重要である。これらを体験した生徒は，様々な人々と互いに認め合い，かかわり合うことを通して，多くの人から喜ばれ認められている自分を実感するなど，充実感を味わうことができると考える。

地域との交流は，各都立高等学校で，魅力ある学校づくりや学校の特色化の一環として実践されており，数多くの成果を上げている。その中でも注目されるのは，東京都教育委員会が推進している「都立高等学校 I・C（個性化・特色化）推進事業」である。これは，平成 7 年度より 3 年間，都立高等学校の個性化・特色化を図る目的から推進しているものである。平成 7 年度には，58 校の事業が承認され実施されているが，そのうち 38 校は，地域活動やボランティア活動などの地域と交流した活動をテーマとして取り上げている。

こうした地域との交流を通して，異年齢の人々との触れ合いの中で，地域活動やボランティア活動の意義や目的を十分に理解させ，定着させながら，豊かな心とたくましい身体をはぐくむ教育を推進する必要がある。

ア．「都立高等学校 I・C（個性化・特色化）推進事業」にみる地域交流活動

① 平成 7 年度の実施状況

申請学校数	127 校	約 230 事業
実施決定数	58 校	58 事業

② 地域交流の主な事業名

- ・吹奏楽コア・ステーションづくり
- ・古典及び郷土芸能育成事業
- ・部活動による地域に根ざす学校づくり
- ・サッカー部を中心とした地域スポーツの振興
- ・出前文化祭

③ 事業の実績評価の例

- ・学校行事と学校施設を積極的に地域に公開することによって，本校の教育内容に対する地域の理解を深め，その成果を還元することができた。
- ・和太鼓の公演には保護者，地域住民と共に汗を流す中で，かつてなく情熱的な文化祭の取組みになった。
- ・スポーツ，科学，文化の発信校として地域に貢献することができた。
- ・生徒が区内の各施設を訪問する過程で，家内工業やそこで働いている人々の存在を肌で感じる事ができた。

イ. N高校のボランティア活動例

① 目的

地域の高齢者との交流を通して、ボランティアや福祉に関する学習体験をさせるとともに、地域に根ざした学校づくりを推進する。

② 参加者

第1回： 生徒65名 卒業生10名 教員18名 PTA8名 （合計101名）

第2回： 生徒50名 教員13名 （合計63名）

③ 内容

実習生作品の発表と利用、和太鼓などの芸能披露、合唱やカラオケなどによる高齢者との交流

④ 評価

- ・体験を通して高齢化社会における福祉、奉仕の大切さを学習できた。
- ・日常の学習や活動を通して誇りと自信を培うことができた。
- ・地域の人々と、生徒、保護者、教員との連帯感を深めることができた。

ウ. 地域活動やボランティア活動の方向性について

地域活動やボランティア活動については、「地域に理解を深め、その成果を還元することができた」、「地域で働いている人々の存在を肌で感じることができた」、「福祉、奉仕の大切さを体験を通して学習できた」、「日常の学習を通して誇りと自信を培うことができた」など、地域との交流が、生徒にすばらしい感動を与え、自信と誇りをもたせている。こうした地域活動やボランティア活動を通して、人間としての在り方生き方が深められ「生きる力」が芽生えてきていると考えられる。

これら地域活動やボランティア活動等の地域との交流を活性化させるためには、公民科や「産業社会と人間」等と関連付けながら実施する必要がある。また、これらの単位認定が制度的に可能になれば、事前・事後の指導を十分に行った上で、関連する科目の増加単位として認定することが考えられる。それによって、生徒の活動意欲が高められるなどの教育効果が期待できる。今後、学校は地域との交流の発信基地として、ボランティア精神を啓発したり、情報収集・発信を行うなどの役割を担っていかなければならない。

(3) 企業実習・資格取得

現行では、企業実習・見学や資格取得については、専門学科を中心に各学校で推進している。しかし、企業実習は受入れ企業等の問題もあり十分に行われておらず、見学程度にとどまっている。また、資格については、その取得に向けた指導が行われているが、その成果については、制度的に単位認定することが可能になったにもかかわらず、まだ十分に活用されていないのが現状である。

ア. 企業実習

企業等で職場体験を行うことは、望ましい職業観や勤労観をはぐくみ、自己の進路決定に向けての意欲を高める上で大きな意義がある。さらに、職場での異年齢の人々とのかかわりを通して、他者を尊重する態度、寛容の精神、協調する態度を身に付けるなど、社会性をはぐくむ上でも有意義である。

企業等での実習・見学は、専門学科では「課題研究」や「実習」などの授業の中で行われたり、進路学習の啓発的経験として行ったりしている。また、普通科でも、進路学習の一環として行われている。これらの学習の成果については、専門学科では、該当する科目の中で評価することが可能であるが、現行では普通科においては、単位認定することはできない。15期中教審で提言されているように単位認定を行うことが可能になった場合には、「産業社会と人間」等の増加単位として認定することが考えられる。この場合の認定条件を下記のとおり検討してみた。

<単位認定の条件>

- ・実習を依頼する企業等は、生徒の進路希望や学校での学習内容等を考慮して、適切な企業等を選択する。
- ・事前学習では、実習を行う企業等の業務内容や実習に関する基礎知識などについて、あらかじめ学習し、実習計画や事前学習の成果を報告書として提出する。
- ・実習は長期休業期間を利用して行う。実習状況を記録し、定期的に教科担当者に報告する。
- ・実習終了に際して、実習先の企業等の責任者の承認（修了証）を得る。また、実習のまとめを行い、報告書を該当教科の担当者に提出する。
- ・実習時間及び期間についての基準を示し、実習を所定の期間行い、また成果が認められた場合には単位を認定する。

イ. 資格取得

技能審査の成果の単位認定については、臨時教育審議会第三次答申（昭和62年）で、「形式的な学歴が重視される弊害を是正し、評価の多元化を図るとともに、資格を真に能力の裏づけをもったものにする観点から公的職業資格制度を見直す必要がある。」として、学歴主義の弊害を是正し、評価の多元化を図る一つの具体的方策として、資格制度の改革を提言している。そして、平成5年の学校教育法施行規則の改正により、「校長は教育上有益と認めるときは、生徒が知識及び技能に関する審査で文部大臣が別に定めるものに合格したときは、当該校長の定めるところにより、当該審査の内容に対応する高等学校の科目について当該生徒が修得した単位数に一定の単位数を加えることができる。」こととなった。これについては、15期中教審でも各種資格取得の単位認定を推進するように提言している。

東京都では、平成7年3月に技能審査の単位認定に関する標準例を示し、各学校に、この制度の活用を図るよう、積極的に働きかけている。

資格取得の達成に向け、向上心をもって意欲的に取り組むことは、資格に関連した知識・技術の習得だけでなく、主体的な学習態度を育成するなどの効果がある。また、取得した資格を将来の進路に生かすためには、さらに継続して学習することが必要となり、生涯を通して学習するための基礎となる。

今後も技能審査の成果の単位認定の制度を活用して、生徒の意欲を高め、生涯学習社会の基礎を培っていく必要がある。

IV 条件整備

「生きる力」を育成するためには、生徒が「自ら学び、自ら考える」教育や「豊かな人間性」をはぐくむ教育が必要である。そのための中心科目として「産業社会と人間」の設置を考えた。この科目では、調査・発表・討論・演習などの体験的学習が多い。また、自ら学び、課題を解決する能力を育成するために、第Ⅱ章で示したような授業展開の工夫をした場合、多展開の授業やチームティーチングによる課題研究型、演習型、体験学習型など生徒の主体的活動を重視した多様な授業が行われる。これらの授業を効果的に実施するためには、人的条件整備や施設・設備の整備が必要不可欠である。

1 人的条件について

生徒の自主性を育て、思考力、判断力、表現力、創造力を高めるためには、少人数の授業が効果的である。その際、多展開の習熟度別授業、ゼミ形式の授業、チームティーチングなどの様々な授業形態を取り入れる必要がある。また、生徒の興味・関心、能力・適性に応じた教育を進めるためには、大幅な選択科目の導入を図らなければならない。これらの教育活動を効果的に実施するに当たっては人的な条件整備が前提となる。

また、「産業社会と人間」で職業生活や産業社会について学習する際や、地域社会と連携した教科指導を実施する際には、地域・企業等の社会人講師を活用することが効果的である。また、人間としての在り方生き方に基づいた進路指導を効果的に行うためには、進路相談やカリキュラム相談に関する専門家の配置も検討する必要がある。このように、「生きる力」をはぐくむ教育を推進するためには、このような人的条件整備が必要となる。

2 施設・設備について

国語・地理歴史・数学・理科・英語などで、4単位科目のうちの1単位分を多展開の授業形態を取り入れて、課題研究型、演習型、体験学習型などの授業を行う場合、これに対応した広さの教室が一定数必要となる。大幅な選択科目を導入し、開設する講座数を増やした場合は、さらに教室が必要になる。

また、「産業社会と人間」で社会人講師を招いて、講演会などを実施するためには、2～3学級単位や学年単位で授業が行える広い教室も必要になる。

そして、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた教育を行うためには、学習の個別化・個性化を図り、生徒の自主的活動を重視した多様な学習が必要になる。このためには、「メディアセンター」を設置する必要がある。このセンターには、学習への動機付けとなる掲示や展示、自主的な学習を支援する様々な教材、プリント、教具などをあらかじめ準備しておく。また、視聴覚教材やパソコン、図書なども置いておく。インターネットを利用して情報収集や情報発信をすることも必要になってくる。生徒はこれらの中から必要なものを選び、学習内容や方法に応じた場所で学習することになる。

選択講座を効果的に運営するためには、現在のように学級数に等しい数の普通教室をもち、その他に特定の教科の特別教室をいくつか保有して運営する「普通教室型」よりも、すべて

の教科に対し、その教科独自の教科教室を用意し、教室を移動して学習する「教科教室型」の方が運営しやすい。「教科メディアセンター」を中心として、教科教室・教科研究室・教科ゼミ室などで教科ブロックを構成する。この方式は欧米では一般的である。教室の配置や大きさが教科の特性に合わせて設計されるので、教育方法の多様化に最も適した方式であると考えられる。

この場合問題となるのは、ホームルームの位置付けである。これまでのようなホームルーム教室はなくなるので、生徒の休憩や生活・交流・懇談など、純粋な意味での拠点としての「ホームスペース」を考える必要がある。特に選択科目の多い高学年においては、「ホームスペース」は有効である。これは現在の教室の半分の規模で設置し、生徒のロッカーもここに置き、生徒はここに集まってここから各教室へ授業に行くようにする。また、空き時間の自習室としても利用される。(図1参照)

また、豊かな心を育てるためには、生徒同士のコミュニケーションの場や、昼食時にも利用できるように場所として、「コモンスペース」や「カフェテリア」なども必要である。

「教科教室型」を採用した場合の施設のモデルを図2に示す。多様な授業形態に対応できるように、教科教室の大きさは多様なものにする。また、「コモンスペース」と「ホームスペース」が生徒の生活の場となっている。

図1 「ホームスペース」

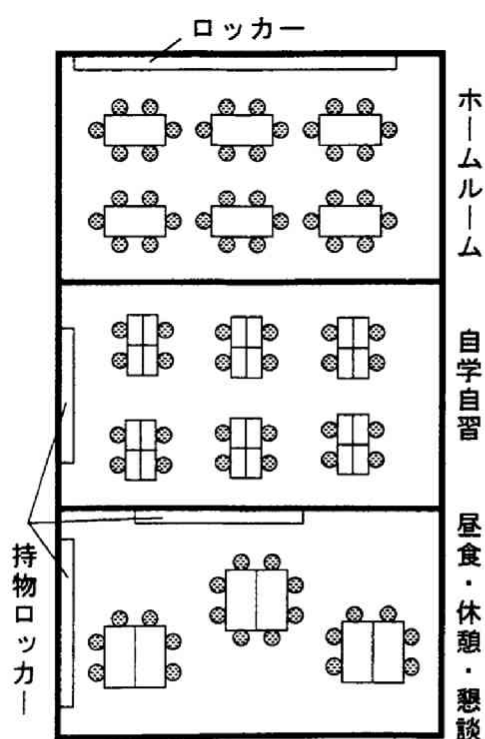
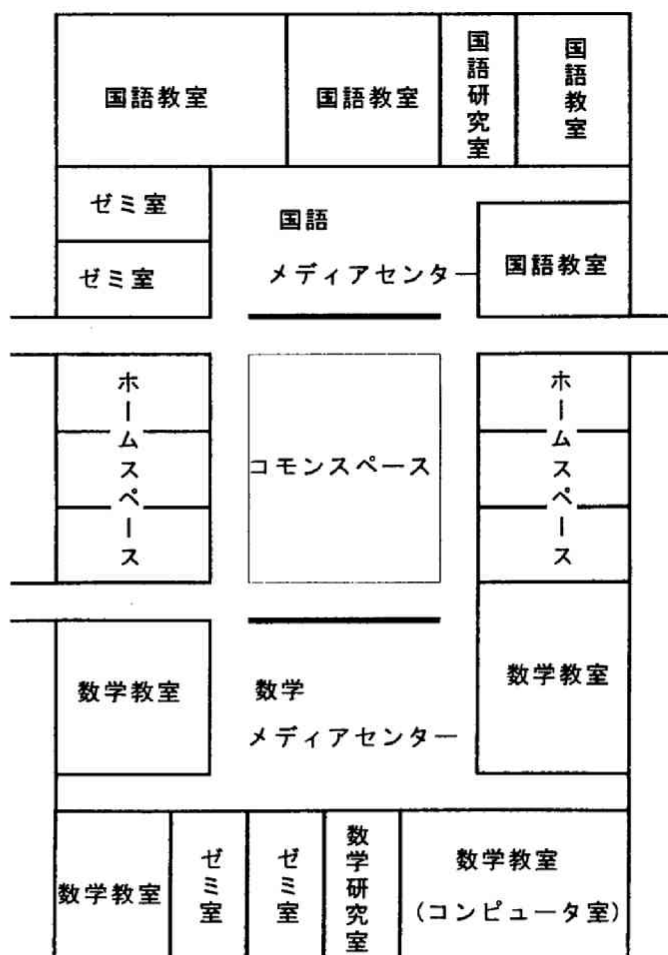


図2 「教科教室型」の施設



V ま と め と 今 後 の 課 題

「生きる力」や豊かな人間性をはぐくむための中心科目として、「産業社会と人間」を普通科や専門学科にも設置することを検討してきた。この科目は総合学科高校における入学年次の原則履修科目であり、これまで全国各地の総合学科高校で実施されてきた。本研究では、これらの実践例を参考に研究してきたが、教科書もなく、どの学校でも手探りの状態のようであった。しかし、研究すればするほどこの科目のよさが分かってくる。講義よりも生徒の活動を重視する。まさに自主性を培い、学び方を学ぶのに適した科目である。「ゆとり」の確保のために必履修科目を減らす方向にある中で、あえてこの科目を導入する理由がそこにある。ホームルーム活動との連携を図りつつ、現在行われている進路指導をこの科目にどのように取り入れていくか。また、ボランティア活動や企業実習等の実施に当たり、地域社会や企業等との連携をどのように図るか。このような今後乗り越えなければならない課題はたくさんあるが、それ以上に実践する価値のある科目である。

教科指導の工夫では、現在の学習指導要領のもとで、課題研究型の授業など生徒の主体的な学習活動を重視した方法を研究してきた。4単位を3単位と1単位に分けて行う方法は、現行の教育課程でも実施可能であるので、今後実践してみたい。

生徒のニーズに応じた教育課程の編成には多くの時間を費やした。できるだけ選択科目を多く置きたいと考えたが、現行の学習指導要領は必履修科目や必履修選択科目が多く、また「準必履修科目」のようなものもあり、なかなか選択科目の時間がとれなかった。その結果、共通履修は最小限の必履修科目のみにして、選択科目群の中から選ばせるという方法が最善と考えた。

豊かな人間性をはぐくむ教育の推進では、「産業社会と人間」をその中心科目として位置付け、職場体験、自然体験、ボランティア活動などの体験活動を充実させ、人間としての在り方生き方の教育を計画的に実施できるようにした。また、豊かな人間性をはぐくむ特色ある選択科目を設置し、「産業社会と人間」で啓発された内容の深化を図り、関連をもたせた。

特別活動は、他人を思いやる心、ボランティア精神、社会性などを育成する観点から、これまでの内容を見直し、「産業社会と人間」の学習との関連を考慮し内容の精選を図りつつ、各種体験活動を積極的に取り入れ、充実を図った。

学校外活動では、短期留学や外国への研修旅行等を異文化体験学習として、評価する可能性を追求した。ボランティア活動や地域との交流活動を他人と協力することの大切さや他人を思いやる心をはぐくむ活動として、積極的に推進することを検討した。また、企業実習や各種資格取得を望ましい職業観・勤労観を育て進路意識を高める活動として位置付けた。これらについては、制度的に単位認定が可能となることを想定して検討したが、今後の動向を見ながら再度検討する必要がある。また、これらの教育活動を充実させるためには、今後、校務分掌組織や運営体制を見直し、「生きる力」をはぐくむための学校運営の在り方を検討することが課題である。

この研究結果を今後の教育計画の参考にしていいただければ幸いである。

「産業社会と人間」年間指導計画例

< 1 学年 > 2 単位用

月	項 目	主 題	学 習 内 容	指 導 形 態
4	オリエンテーション	豊かな高校生活のために	1. 学習活動について 主体的な学習方法・選択科目など 2. 特別活動の意義 生徒会活動・クラブ活動・ホームルーム活動 3. 行事について 体育祭・文化祭・スキー教室など 4. 校外活動の意義 ボランティア・異文化体験・地域活動 5. 高校生活のライフプラン作り	講義 講義 講義 講義
5	自己を見つめる	自己の特性をとらえる 青年期の課題	1. 自己紹介 2. 諸調査・検査の実施（能力・適性、興味・関心等） 3. インタビューゲームをする 1. 青年期とは何か 2. 青年期の成長と悩み 3. 自分と異なった環境で生活する人たち（障害者、高齢者等）との交流 4. 人間としての在り方生き方について考える。	演習 発表 検査 演習 講義 討論 体験
6	職業と生活	職業の世界を知る	1. 産業や職業の種類と内容について調べる。 2. 日本の農業・林業・水産業について調べ、考察する。 3. 日本の製造業について調べ、考察する。 4. 日本の商業・サービス業について調べ、考察する。 5. 社会人講師の話を聞く。 6. 諸活動のまとめ	作文 調査・発表 調査・発表 調査・発表 調査・発表 講演
7				
8	体験学習	体験をもとに考える	1. ボランティア活動に参加する。 2. 異文化体験学習に参加する。 3. 職場体験学習に参加する。 4. 自然体験学習に参加する 5. 地域活動に参加する。 6. 伝統文化学習活動に参加する。 7. 体験学習をまとめる。	作文 体験 体験 体験 体験 体験 作文
9	進路と自己実現	望ましい職業観・勤労観を培う 自己の進路について考える	1. 勤労や職業の意義について考える。 2. 上記についての自己の価値観をどこに置くかを考える。 1. 就職、進学等について真剣に考える。 2. 上級学校を調べる。 3. 職業についての自己の適性について考える。 4. 先輩の体験談を聞く。 5. 上記の整理を通して自己の進路について考える。	演習 討論・作文 作文 調査 作文 講演 演習 演習
10		自己の進路の方向性を決める	1. 就職か、進学かの方向性を決める。 2. 自己の進路を目指してどのような学習が必要かについて考える。	演習 演習
11		履修ガイダンス 履修計画の作成	1. 選択科目の内容・特色等について理解する。 2. 選択科目の特徴的な授業を実際に体験する。 1. 将来の希望を生かし、学習計画に基づきコースを選択をする。 2. 多種多様な選択科目の中から主体的に科目を選ぶ。	講義 実習 演習
12	我が国の産業の発展と社会の変化	産業・就業構造の変化について考える	1. 科学技術の発達に伴う産業の発達と社会の変化について考える。 2. 社会人講師の話を聞く。 3. 以上について整理し、まとめる。 4. 現代の日本の置かれた状況について考える。	演習 講義
1				
2	私のライフプラン	ライフプランを設計する	1. 一年間の取り組みを終えて、将来どのような人生を送りたいかを考える。 2. 様々なライフプランに接し、様々な生き方、人生観に接する。	講演 演習 討論・作文 演習・作文
3		ライフプランを発表する		発表

< 2 学年 > 1 単位用

月	項 目	主 題	学 習 内 容	指 導 形 態
4	自己理解のため に	自分自身を知る	1. 個性について考える。 2. 高校における一年間の活動をふりかえる。 3. 自己診断カルテを作る。	講義・演習 演習
5		職業に対する自己 の適性	1. 職業選択について考える。 2. 自己の能力の発見する。 3. 適性検査を実施する。	講義 演習 検査 講義
6	我が国の産業の 発展と社会の変 化Ⅰ	産業・就業構造の 変化について考 える	1. 科学技術の発達に伴う産業の発達と社会の変化について考える。 2. 社会人講師の話を聞く。 3. 以上について整理し、まとめる。	講演 作文 講義・演習
7	職業と生活	現代の先端企業を 見学する	1. 見学企業に対する事前学習をし、調査内容を検討する。 2. 実際に企業に行き、調査する。 3. 訪問した企業に働く人々と話し合い、職業観・勤労観を学ぶ。 4. 上記の体験を整理し、まとめる。	調査・体験 体験
8				
9	進路と自己実現	就職か進学かの選 択	1. 自分の価値観と職業の関係について考える。 2. 職業、進学決定のための情報を集める。 3. 上級学校を見学し、その学生と話し合う。 4. 進路を決定する。	作文 演習 調査 体験 作文 講義・演習
10				
11				
12	我が国の産業の 発展と社会の変 化Ⅱ	日常生活への影響 を考える	1. 産業社会の発展が、日常生活に与える影響について考える。 2. 衣食住など身近な側面から影響を考える。 3. 特定の産業の発展から日常生活の変化について考える。 4. 日常生活の変化に見られる現代社会の課題について考える。	演習 演習 討論
1				
2	私のライフプラ ン	3 年生に向けての 進路設計を立てる	1. 一年間の取り組みを終えて、将来どのような人生を送りたいかを考える。 2. 進路実現に向けてどのような取り組みをするかを考える。	演習 作文
3				

< 3 学年 > 1 単位用

月	項 目	主 題	学 習 内 容	指 導 形 態
4	自己理解のため に	自己の将来の職業 について	1. 進路決定に向けての手順を知る。 2. 様々な価値観と職種について考える。 3. 自己の職業観を確立する。	講義 演習 演習
5	職業と生活	職業と法律・資格 の関係を知る	1. 職業生活に関する法律等を理解する。 2. 職業と資格の関係や取得方法について調べる。	講義・演習 調査 講義
6	進路と自己実現	進路へ向けての準 備	1. 就職希望者は就職への手順、注意事項を知る。 2. 進学希望者は進学への手順、注意事項を知る。 3. それぞれの進路に向けて情報を集め、研究する。 4. 企業・学校見学をする。	講義 調査・演習 体験 討論
7				
8				
9	我が国の産業の 発展と社会の変 化	現代の産業社会を 見つめる	1. 科学技術の発達による産業構造の変化について調査し、考察する。 2. 情報化社会について調査し、考察する。 3. 国際化社会について調査し、考察する。	調査・演習 調査・演習 演習 演習 演習
10		産業の発展と様々 な問題	1. 産業の発展による日常生活の変化について考える。 2. 大量消費社会における真の豊かさについて考える。 3. 環境問題に関心をもち自然と共生することの大切さを考える。 4. 高齢化社会のもたらす影響について考える。 5. ボランティア活動の実践について考える。 6. 上記を整理し、まとめる。	
11				
12				
1	私のライフプラ ン	卒業に向けて	1. 高校生活を振り返って、どのような人生を送るかを考える。 2. 様々なライフプランに接し、自己の人生観を豊かにする。 3. 自己の人生をどのように切り開いていくかを考える。	作文 演習 発表・討論 作文
2				
3				